

2020年12月17日

## 2018～2019年度事業結果に対する外部評価報告書

氏名：小澤 佳秀

別紙の2018～2019年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）事業結果報告書に基づき、2018～2019年度事業結果に対する外部評価結果を報告します。

### 1) 女性研究者採用比率を30.0%以上達成

意見：

在籍、採用、昇任の女性比率について、学域別、職階別、任期の有無別のデータをHPに公開してミエル化されたことを評価いたします。

2019年度の数値目標未達成への対処として、担当理事と男女共同参画推進室長が採用比率の低い部局長に対し、今後の女性研究者の採用・昇任に関するヒアリングを行われました。特に医学域は全体採用数の4割強を占めており、この学域に改善が見られなければ、2020年度以後も数値目標達成は難しいと思われます。学域固有の課題を大学執行部と共有し、学域任せでなく、大学全体で取り組まれることに期待いたします。

### 2) 上位職登用比率(昇任比率)の向上

意見：

国際共同研究PI養成プログラムによる海外派遣は、2019年度は4名（うち3名は2018年度から継続）を海外に派遣しており、目標を達成したことを評価いたします。また、その成果として、同プログラム参加の1名が講師から准教授に昇任したことも評価いたします。さらに、2018年度のサンフランシスコ、ニューヨーク、ブリュッセル、デュッセルドルフ、ロンドンに続き、2019年度はシンガポール、バンコク、ハノイに海外ワークライフバランスコーディネーターを配置し、女性研究員の海外共同研究を後押しする体制を強化されたことを評価いたします。

昇任比率においては、最終年度の目標数値20%を既に達成されました。今後も国際共同研究PI養成プログラムの推進により、目標数値を恒常的に達成されることを期待いたします。

### 3) 次世代を担う若手研究者の裾野拡大

意見：

国際人事交流プログラムについては、2019年度も5名を海外に派遣し、成果報告書並びにダイバーシティマネジメント報告書をまとめ、成果発表会やニュースレターなどで

海外の先進事例を学内に波及させたことを評価いたします。国際共同若手研究者養成プログラムについては、2019年度も1名の女性研究者を海外に派遣し、国際共同研究の発展による研究業績の増大などの成果が得られ、目標を達成したことを評価いたします。若手研究者の比率については、各部局における積極的な推進によって着実に上昇させており、目標の22%を達成されることを期待いたします。

理系志望の女子中高生に対する取組については、弊社も2019年に姫路市主催のイベントに参画し、理系志望の女子中学生と女性研究員との交流会を行い、多くの参加者から好評を頂きました。このような取組は女性研究員の裾野を広げる上で必要不可欠と思われまますので、是非とも継続して頂けるよう期待いたします。

#### 4) ダイバーシティ環境の充実と学外への波及

意見：

学長自らが神戸大学ダイバーシティ推進宣言を行うことにより、ジェンダー等に対するアンコンシャスバイアスの払拭し、ダイバーシティを推進することに経営トップがコミットすることを示したことを評価いたします。さらに、企業等との連携を図るダイバーシティ共創ネットワーク会議を開催し、ダイバーシティ環境整備について情報交換等を行ったことを評価いたします。また、eラーニングによるダイバーシティ教育プログラムα版を開発し、学内及びダイバーシティ推進共創パートナーに対し、完成版開発に向けたアンケートを実施し、利用者の視点に立った開発を継続されていることを評価いたします。

#### 5) 女性研究者派遣制度の成果および評価の検証

意見：

本事業で海外に派遣した27名の女性研究者の研究業績(学術論文数、国際学会発表数、国際共同研究数、科研費採択件数、そのほかの外部資金獲得件数)を、事業開始前後で比較することにより、本事業の投資効果が研究業績の向上や研究活動の活発化に顕著に現れていることを、客観的かつ具体的に示せたことを評価いたします。

本事業で海外派遣した若手研究者と同じ職階の一般女性教員との比較においても、論文数や国際学会発表数に本事業の効果が現れていることを評価いたします。

#### 6) 全体に対する意見(「2018年度外部評価指摘事項に対する対応策」へのご意見もこちらにご記入ください)

意見：

昇任比率に関して、目標設定数値の絶対値が低い、との指摘もありますが、母数の大きさ(2017年度16名、2018年度50名、2019年度42名)からすると、単年度の数値は変動しやすいと思われます。内部での評価においては、直近3年間の移動平均値などを

使用することも検討いただければと思います。

神戸大学とダイバーシティ推進共創パートナーとの間、さらにはダイバーシティ推進共創パートナーの間で女性人財の交流が活性化し、互いに学び合い刺激し合って、ダイバーシティ推進におけるそれぞれの目標達成に繋がることを期待しています。